

2015年度活動報告 文芸授業：レキエブーフレイト（文法・会話）

郷矢 明美（関西学院大学日本語教育センター）

早川 杏子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業では、初級文型、基本語彙、生活に役立つ表現を学習し、初級レベルの文法を使って、日常生活で相手と簡単な会話ができるようになることを目標とした。『大地メインテキスト』1の1課～12課までの文法項目と語彙を学習し、プリントや宿題によって会話表現および文章表現の練習を行った。日本語入門レベルの学習者を対象とするが、クラスは全くの初学者と少し習ったことのある学習者で構成されている。

2. 授業内容

本授業は週3回（月・水・金）、1回1コマであったため、月・水の2コマ担当者が文法と会話を、1コマ担当者が漢字と発表（作文）および文法の復習を行う形とした。進度としては、前半は2コマで、後半は3コマで1つの課を進めた。予習には、予め学習課の語彙の意味を調べ、語彙を書かせる宿題を課した。授業では、文法説明を行い、習った語彙や文型を用いて、その後会話練習を行った。1課終了毎に、既習文型や語彙などが運用できるようになるために、テキストの総合練習のテーマに関連させた作文も宿題とした。これらの作文課題に対しては、1コマ担当者（金）がフィードバックを行い、学生間で発表あるいはピア・リーディングを行った。また、学生から聴解技能の練習に対する要望があったため、後半は各課の内容に合わせたリスニングタスクを宿題として追加することで、聴解面を補うことにした。学習事項の確認として、1課が終わった次の授業で、クイズを実施した。

3. 成果と今後の課題

初学者は、初め仮名表記や簡単な会話でも困難を感じる学生が多かったが、最終的には、質問に対しての応答も速くなり、簡単な複文を使って自分の意思が伝えられるようになった。

基本的なスタンスとして、予習して授業に臨むことを求めたが、クラスによってその達成度が大きく分かれた。一方のクラスでは、授業でも予習と復習の重要性を説明したものの、学期を通じて学習への取り組みがあまり改善せず、学習経験のある学生にとっては満足いく進捗にならなかった。今後は、語学学習での予習の重要性を説明しつつも、それだけではなく、予習が基本となった上での授業デザインや学習のフレームワークを作っていく必要があるだろう。